

新型コロナウイルス感染症「第8波」に向けた方針

『**発熱外来の拡充**』と『**臨時の医療施設の設置**』を進め、
より多くの方に適切な医療を提供します。
(設置場所や設置時期については、事業者等と最終調整中)

方針の背景

◆ 新型コロナの重症化率 (※1) は季節性インフルエンザ相当まで低下

※1 重症化率は、60歳未満で0.02%、60歳以上で0.86% (今年7～9月の県内実績値)

- ・ オミクロン株の特性を考慮すると、時短要請などの強い行動制限は非合理的
- ・ 医療崩壊を回避しながら、できる限り、外出・イベント開催自粛等の回避が理想的

◆ 一方で、今冬は、季節性インフルエンザ (※2) との同時流行も懸念

※2 季節性インフルは、オーストラリアで過去最多を記録し、中東・中南米諸国でも流行を確認

- ・ 発熱患者は最大19,400人 (うち、新型コロナ10,200人) (※3)
- ・ 新型コロナ患者のうち、入院患者は1,200人に達する可能性

※3 本県を含む多くの県で、すでに第6波の感染規模を超過し、北海道は過去最多を記録

◆ 冬場は、発熱・循環器疾患などで、医療現場がひっ迫する傾向

- ・ 新型コロナの法的位置付けが変わらないことが原因で、外来・入院 (※4) がひっ迫

⇒ 全医療機関で対応できるよう、**国に対し、分類の見直し (2類相当→5類相当) を要請**

※4 入院患者の年齢構成は、60歳以上が約9割、80歳以上が約6割

入院率は、60歳未満で0.4%、60歳以上で7.8% (陽性者に対する入院患者の割合)

新型コロナ「第8波」に向けた対策の概要

- 「発熱患者19,400人、入院患者1,200人」に備え、以下の対策等を講じる。

1. 発熱外来の拡充

※地図アプリで、近隣の発熱外来が簡単に検索できます。

- ◆ ①発熱外来の新規開拓、②診療時間の延長、③臨時の発熱外来の設置により、受診が想定される17,600人に対し、17,800人分の診療・検査能力の確保を目指す。

17,800人分の診療・検査能力の内訳

診療・検査医療機関
(従来分)
15,000人/日

診療・検査医療機関
(拡充分)
2,500人/日

臨時の発熱外来
(新規分)
300人/日

2. 医療機関の役割分担

- ◆ 発熱外来のひっ迫を緩和するため、発熱外来以外の医療機関との役割分担を進める。
- 112の医療機関で、新型コロナ「陰性」の発熱患者に対応。
※その他、発熱外来に移行する医療機関や、地域の発熱外来等への医療従事者の派遣、ワクチンの打ち手確保を推進する医療機関もあります。

診療・検査医療機関 (いわゆる発熱外来) のマッピング

- 県内の診療・検査医療機関を地図上に表示し、最寄りの医療機関を可視化。
- 医療機関の“ピン”をクリックすると、住所や連絡先、診療時間などが表示。
⇒大病院はひっ迫するため、地域のクリニックの検索もお試ください。



★ 一般患者対応 📍 自院患者のみ対応 (Google My Maps)

XXXクリニック	
医療機関名 XXXクリニック	対象者：自院患者 ○
郡市医師会名 XXX市医師会	対象者：濃厚接触者 ○
住所 XX市XX町XXX	小児対応の可否 X歳以上可
電話番号 029-XXX-XXXX	電話診療の可否 ○
実施内容：診療 ○	オンライン診療の可否 —
実施内容：検査 ○	稼働時間：月曜日AM 9:00~12:00
対象者：一般患者（紹介患者など） ○	稼働時間：月曜日PM 15:00~18:00

新型コロナ「第8波」に向けた対策の概要

3. 自己検査の推奨

- ◆ 陽性者全体に占める **自己検査の割合「約2割」**まで向上を目指す（現在は約1割）。
※自己検査で「新型コロナ陰性」と判明した場合、「季節性インフル陽性」の可能性が高く、早期に受診することで、治療薬の処方など、早期治療につながります。

抗原検査キットや食料・生活用品等の備蓄をお願いします。

4. 臨時の医療施設の設置

- ◆ **入院患者の大半を高齢者**が占めるため、**『介護機能を備えた臨時の医療施設』**を設置すべく、関係者と最終調整中。

療養対象

約**200**人（酸素投与や点滴が必要な方、医療対応が必要で介護も必要な方）

※福祉施設入所者が陽性となった場合は、入所者の身体状況の悪化防止と医療現場のひっ迫回避のため、原則として従来どおり福祉施設内で療養し、必要に応じて当該施設や医療機関で療養していただきます。

その他特長

検査能力約**300**人/日の発熱外来を併設し、即日で薬の処方も可能

※「検査能力300人/日」は、大規模な発熱外来の数倍に相当します。

運用開始日

年末年始の感染拡大を見据え、**1月上旬開所**を目指して調整中

「臨時の医療施設」のイメージ

- 医師・看護師・介護士を配置し、酸素投与や点滴などの医療行為を実施。
- 車イスの利用者等、介護度の高い患者にも対応できるように、平屋建ての施設を設置。



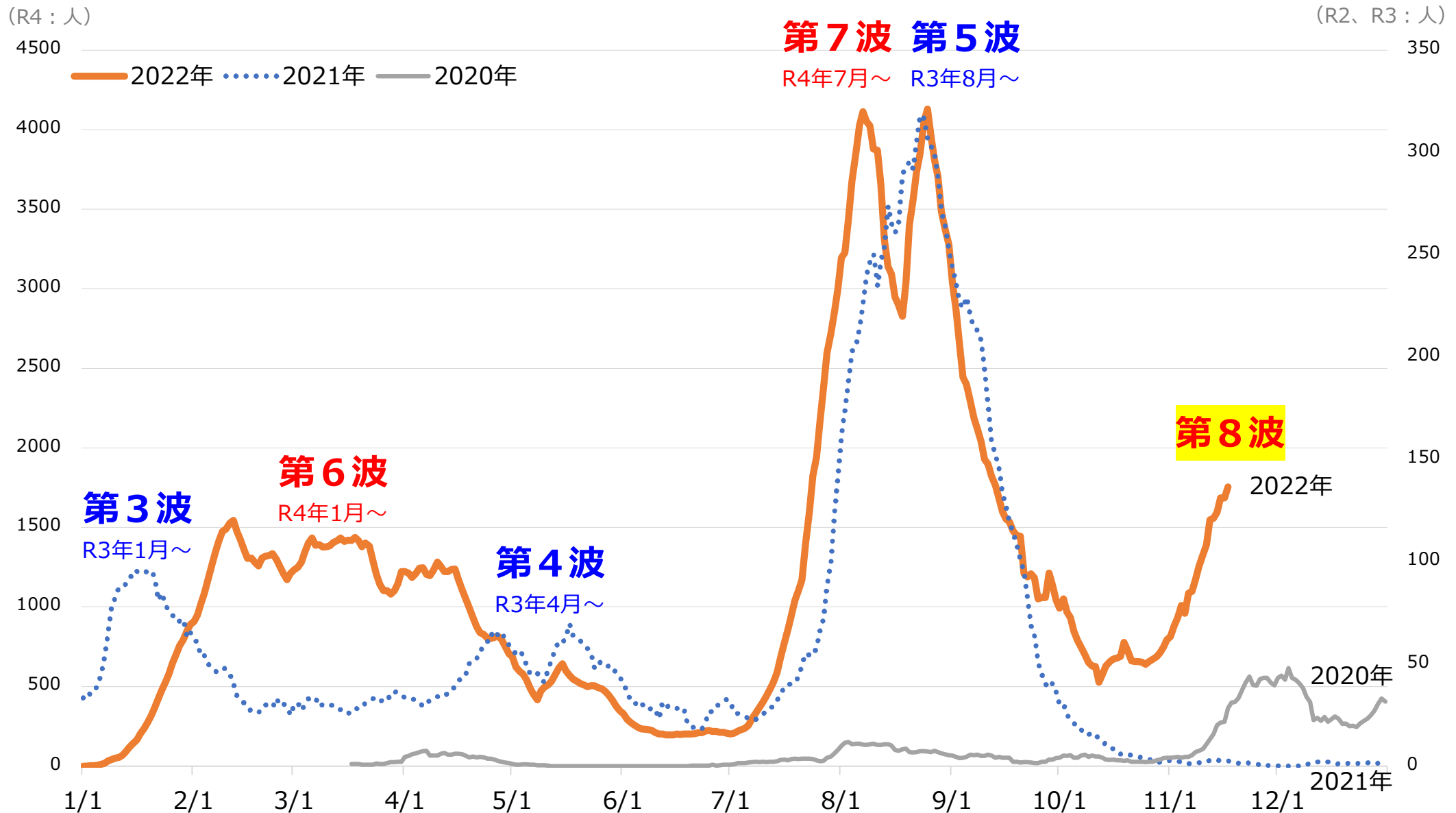
トレーラーハウスを連結



車イスの利用者にも対応できる平屋建て

(参考 1) 今年と過去2年の新型コロナの感染状況

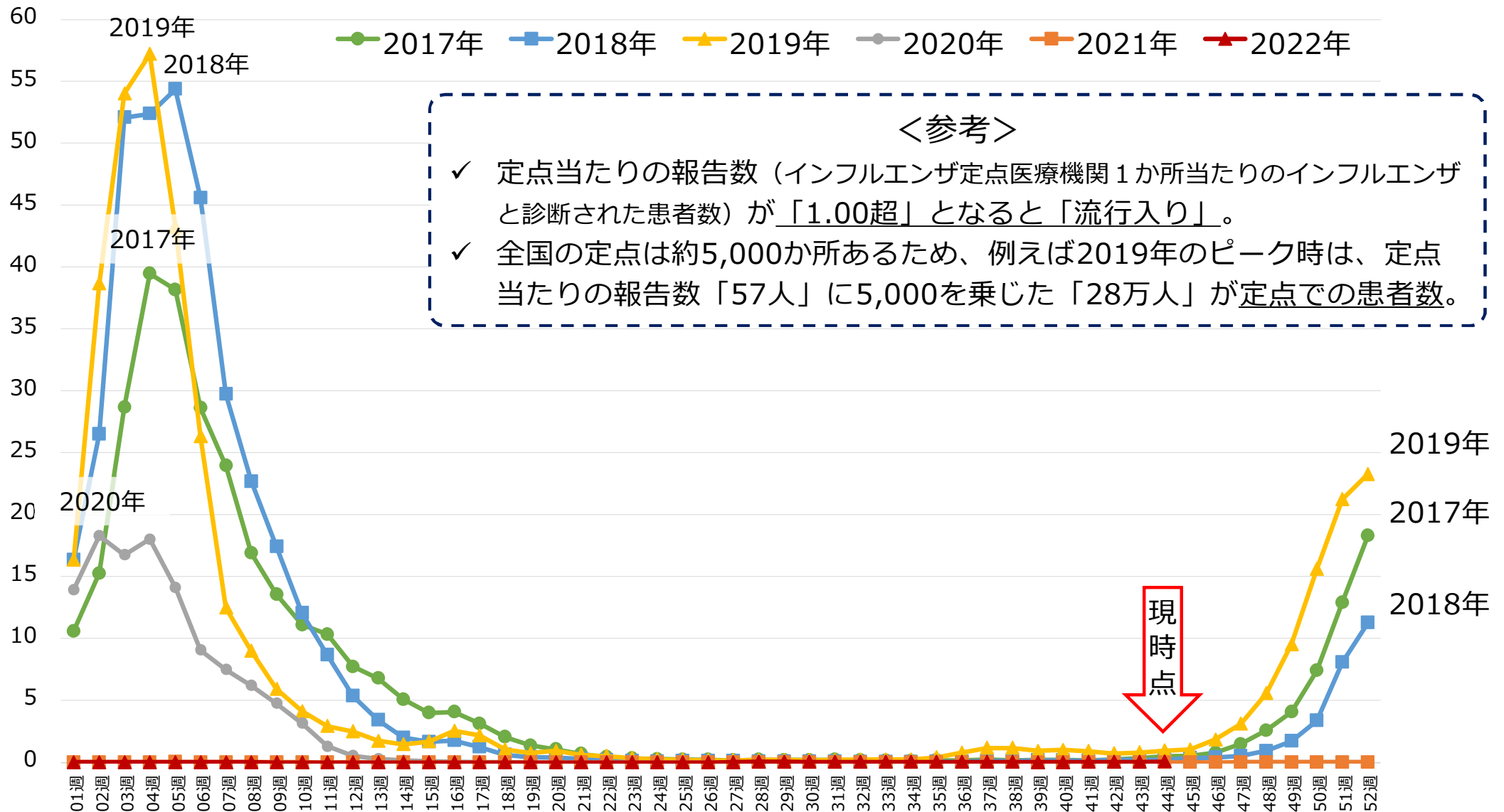
- すでに多くの県で第6波の感染規模を上回り、北海道では第7波をも超過し最多更新。
- 本県においても、すでに過去2年より早い時期・大きな規模の感染拡大を確認しており、今後、強い行動制限を回避するためにも、先手の対応が必要。



(参考 2) 季節性インフルエンザの流行状況 (全国定点当たり報告数)

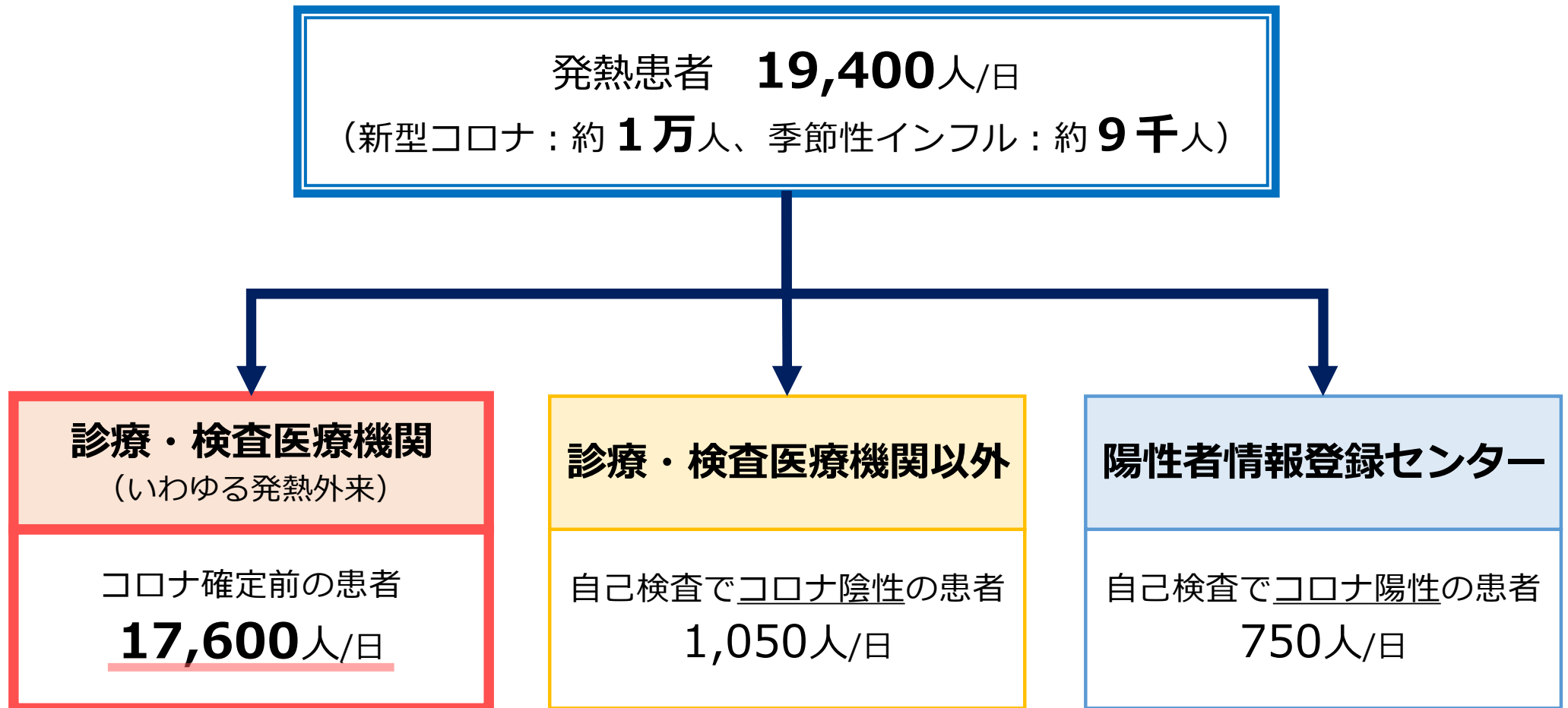
- 新型コロナの流行以前（2020年1月）、**2018・19年は季節性インフルエンザが大流行。**
- 新型コロナの流行以降、国内でインフルは流行していないが、今年は海外で流行を確認。
- 現在、国内で流行は見られないが、**過去には11月下旬頃に流行入り**しており、状況を注視。

(定点当たりの報告数：人)



(参考3) 新型コロナと季節性インフルの同時流行

- ▶ 新型コロナと季節性インフルが過去最大の規模で同時流行すると仮定し、「新型コロナ患者：約**1万人**/日、季節性インフル患者：約**9千人**/日」（計**19,400人**）と推計。
- ▶ 第8波での医療崩壊を回避するため、「発熱外来のひっ迫緩和」と「患者の療養先拡充」に取り組む。



※中学生～65歳未満で基礎疾患を有しない者の15%が自己検査を実施すると仮定